

第3期第8回 帯広市産業振興会議 次第

日時：平成26年9月22日（月）18:00～

場所：帯広市役所10階 第5B会議室

I. 開 会

II. 会長挨拶

III. 協議

1. 専門部会における論点に対する対応方向について

2. 論点4に対する対応方向について

3. ビジョン見直しのポイントについて

IV. その他

V. 閉会

配付資料	・ 資料1	専門部会における論点に対する対応方向（概要版）
	・ 資料2－①～④	各部会論点に対する対応方向
	・ 資料3	その他各部会からの意見
	・ 資料4	論点4に対する各部会からの意見
	・ 資料5－①～②	ビジョン見直しのポイントについて
	・ 参考資料	帯広市産業振興ビジョン

1. 部会開催の概要

(1)経過

帯広市産業経済実態調査の結果を受けて、帯広市産業振興ビジョンの見直しに向けて整理した各論点に対する対応方向を協議するため、4つの部会（経営基盤、人材、ものづくり・販路拡大、集客・交流）を設置。

(2)実施期間

平成26年7月中旬～8月末にかけて、各部会、計4回ずつ開催。

(3)実施体制

各部会には振興会議の委員を各3人ずつ配置し、その中から部会長を選任。

部会	部会長
経営基盤	三品 幸広 委員
人材	松本 健春 委員
ものづくり・販路拡大	後藤 健市 委員
集客・交流	眞鍋 憲太郎 委員

2. 論点に対する対応方向

(1)中小企業の経営基盤の強化

【論点1】経営基盤強化に向けた事業者、商店街、団体などの自発的な取り組みを促進するためには、どのような方法が効果的か。



対応方向

- 創業・起業の促進を通して地域全体の活性化を促す。
 - ・将来性のある新たな産業での創業・起業が期待され、創業のマインドを高めていかなければならない。
- 関係機関・団体の各種施策の活動の情報共有と情報発信の統一化。
 - ・施策や情報発信の重複など、必ずしも効率的なものとなっていない。統一化を可能な限り行っていく。
- 商店街や個店等の活性化を促進する。
 - ・当事者意識を持って、活性化の取り組みを進められるよう商店街、個店に対する支援を検討していく。

(2)産業人・担い手の育成

【論点2-1】必要な人材を安定的に確保するために、地域や業界の魅力の再発見・発信、及び人材の発掘・定着を、どのような方法で行うことが効果的か。



対応方向

- U・Iターナー者の確保促進
 - ・U・Iターン経験者からの聞き取りによるニーズ調査。
 - ・U・Iターン者へのフォローアップ。
 - ・市ホームページ、十勝以外に居住する帯広出身者のネットワーク等を活用し、十勝の魅力を発信。
- 地元企業の情報・魅力の発信
 - ・出前講座、職業体験イベント等を利用した小中学生への情報発信。
 - ・長所・短所に関わらず、企業側の正確な情報を発信。

【論点2-2】時間や資金面の負担を抑えながら、後継者や技術者などをはじめ、事業者が必要とするスキルや仕事への適性などを備えた人材を長期にわたって持続的に育成するには、どのような方法が効果的か。



対応方向

- 研修などの教育制度の充実
 - ・一企業での研修は負担が大きいため、業界関係者が共同で行う研修制度の整備。
 - ・次世代リーダー育成のための継続的な研修の実施。
- 市内での人材育成制度改革
 - ・「人材育成工程表」の作成と、人材育成に係る社内での認識の共有化。
 - ・メンター制度※の理解促進と導入推進。
 - ※会社や配属部署における上司とは別に相談役となる先輩社員が、若手職員をサポートする制度。

(3)ものづくり産業の活性化

【論点3-1】資金・時間・人・情報などさまざまな制約がある中小企業が、数多くチャレンジできるようにするには、どのような方法が考えられるか。



対応方向

- 支援制度の活用サポート
 - ・支援制度の内容や活用方法等の情報を、企業に対して積極的にわかりやすく提供する。
- 企業同士の連携促進
 - ・1社だけではできないことを共同、連携して行うために、企業同士の接点を作る場を提供する。
 - ・各企業が持つネットワークを可能なかぎり「見える化」し、有効に活用する。
- 大学・試験研究機関等との連携促進
 - ・地域、企業が抱える課題を解決するために、大学等を活用する。

【論点3-2】域内外へ出荷・販売を大きく増やすには、中小企業にとって十分な対応が難しい営業活動をどのような方法で促進・支援するのが効果的か。



対応方向

- 「つながり」を活かした情報発信力の強化
 - ・個人、企業、地域それぞれのネットワークを活かし情報発信力を強めていく。
 - ・地域の魅力ある企業の情報をデータベース化し、地域内外に発信する。

(4)産業基盤の強化

【論点4】域外とのつながりを深めつつ、域内企業の競争力を高めていくには、どのようなインフラが求められるか。



対応方向

※9月以降の親会議にて検討。

(5)集客・交流産業の振興

【論点5】交流人口を拡大し、域内への波及効果を生み出すため、滞在型観光客や外国人観光客など、この地域を訪れるお客様に最大限の価値や満足感を提供するとともに、地域の魅力の向上や発信をどのような方法で行っていくことが効果的か。



対応方向

- 地域の魅力向上
 - ・観光地としての魅力やホスピタリティの向上により、一年を通して観光客・宿泊客などを呼び込める取り組み。
- 地域の魅力発信
 - ・美しい田園景観、「食」など国内外に誇れる観光資源を効果的に発信できる仕組みづくり。
- 満足度の提供
 - ・「十勝らしい」観光メニューを確立することにより、この地域を訪れる観光客に最大限の満足感を提供する。

経営基盤部会 論点に対する対応方向

【論点 1】経営基盤強化に向けた事業者、商店街、団体などの自発的な取り組みを促進するためには、どのような方法が効果的か。

対応方向	部会における意見・議論
①創業・起業の促進を通して地域全体の活性化を促す	・ 少子高齢化、人口減少が進む中で、地域の活力の維持、全体の市場の拡大を図っていくことが重要。 ・ そのためには、特に将来性のある新たな産業での創業・起業が期待され、創業のマインドを高めていかなければならない。 ・ これまでも、創業・起業は産業振興ビジョンの最優先課題であるが、引き続き取り組みを進めていく必要がある。
②関係機関・団体の各種施策の活動の情報共有と情報発信の統一化	・ 行政、金融機関、各種支援機関などが、中小企業の経営基盤強化のために、さまざまな支援活動を行ってきている。 ・ しかし、関係機関・団体の連携不足などにより、施策や情報発信の重複など、必ずしも効率的なものとなっていない面も見受けられる。 ・ したがって、関係機関・団体の連携をこれまで以上に深め、施策や情報発信の統一化を可能な限り行っていく必要がある。 ・ これまでも、各機関などが有する中小企業向けの情報を利用者に効果的に提供する仕組みが求められ、示してきたが、引き続き取り組みを進める必要がある。
③商店街や個店等の活性化を促進する	・ 商店街については、これまでも商店街のイベント事業や商店街設備の維持・改修に対する支援などが行われているが、活性化には至っていない状況にある。 ・ 商店街の活性化は、行政などの他者が細かく口を出してうまくいくようなものではなく、商店街自ら考えて進めていくことが重要。 ・ 商店街が当事者意識を持って、活性化の取り組みを進められるよう、エリアとしての商店街はもちろん、個店に対する支援にも視野を広げ、検討していく必要がある。 ・ これまでも、商業関係団体支援や商店街活性化・商店街団体支援を行っているが、引き続き取り組みを進める必要がある。

人材部会 論点に対する対応方向

【論点 2 - 1】必要な人材を安定的に確保するために、地域や業界の魅力の再発見・発信、及び人材の発掘・定着を、どのような方法で行うことが効果的か。

対応方向	部会における意見・議論
① U・I ターン者の確保促進	・ U・I ターン経験者からの聞き取りによるニーズ調査。 ・ U・I ターン者へのフォローアップ。 ・ 市ホームページ、十勝以外に居住する帯広出身者のネットワーク（首都圏等にある「十勝ふるさと会」など）等を活用し、十勝の魅力を発信。
② 地元企業の情報・魅力の発信	・ 出前講座、職業体験イベント等を利用した小中学生への情報発信。 ・ 長所・短所に関わらず、企業側の正確な情報を発信。

【論点 2 - 2】時間や資金面の負担を抑えながら、後継者や技術者などをはじめ、事業者が必要とするスキルや仕事への適性などを備えた人材を長期にわたって持続的に育成するには、どのような方法が効果的か。

対応方向	部会における意見・議論
① 研修などの教育制度の充実	・ 一企業での研修は負担が大きいため、業界関係者が共同で行う研修制度の整備。 ・ 次世代リーダー育成のための継続的な研修の実施。
② 社内での人材育成制度改革	・ 「人材育成工程表」の作成と、人材育成に係る社内（管理者と社員）での認識の共有化。 ・ メンター制度（※ 会社や配属部署における上司とは別に相談役となる先輩社員が、若手職員をサポートする制度）への理解促進と導入の推進。

ものづくり・販路拡大部会 論点に対する対応方向

【論点 3 - 1】資金・時間・人・情報などさまざまな制約がある中小企業が、数多くチャレンジできるようにするにはどのような方法が考えられるか。

対応方向	部会における意見・議論
①支援制度の活用サポート	・支援制度等の情報とその活用方法をメール配信や情報誌等の手法を用いて、企業に届くように積極的に提供する。 ・企業支援のホームページは、デザインや機能を整理し、企業にとって見やすく情報を検索しやすいように工夫する。 ・支援制度の活用にあたっては、行政のノウハウを有効に活用し、エントリーしやすいようにする。
②企業同士の連携促進	・生産、加工、流通等、中小企業 1 社だけで取り組むことが難しいことを共同・連携して行うために、企業同士の接点を作る場を提供する。 ・各企業が持つネットワークを可能なかぎり「見える化」し、有効に活用する。 ・5 S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）等、各企業において共通する取り組みで連携し生産性を上げる。
③大学・試験研究機関等との連携促進	・地域、企業の課題解決にマッチする帯広畜産大学の学部等の分析を行う。 ・とち財団等の試験研究機関の役割・機能を整理し、企業の課題解決のために活用する。 ・高等技術専門学院等において、地域で伸ばしたい産業についての教育プログラムの作成などを行い、実務的な人材教育を行う。

【論点 3 - 2】域内外へ出荷・販売を大きく増やすには、中小企業にとって十分な対応が難しい営業活動をどのような方法で促進・支援するのが効果的か。

対応方向	部会における意見・議論
①「つながり」を活かした情報発信力の強化	・「十勝を丸ごと売る」という考えのもと、各企業が持つネットワークを有効に使い、情報発信を行う。 ・企業→消費者→企業という情報の流れを活かすため、消費者を巻き込んだ取り組みを行う。 ・インターネットを有効に活用し、十勝のことを全て調べられるようなホームページの開設や生産者、業界団体の共同展開等を行う。 ・販路拡大に向けて域外にある機関等を活用する。 ・各企業が持つネットワークを可能なかぎり「見える化」し、有効に活用する。（再掲） ・海外に向けた情報発信を強化するために、翻訳や通訳を担える人材を登用する。 ・地域の魅力ある企業の情報をデータベース化し、域内外に発信する。

集客・交流部会 論点に対する対応方向

【論点 5】 交流人口を拡大し、域内への波及効果を生み出すため、滞在型観光客や外国人観光客など、この地域を訪れるお客様に最大限の価値や満足感を提供するとともに、地域の魅力の向上や発信をどのような方法で行っていくことが効果的か。

対応方向	部会における意見・議論
①地域の魅力向上	観光入込客数は順調に推移しているが、季節による偏りや公共交通機関の運行状況等による影響を受けやすい傾向が見受けられる。また、宿泊客数については、イベントやコンベンション等の開催時期に集中することから、観光地としての魅力やホスピタリティの向上により、一年を通して観光客・宿泊客などを呼び込める取り組みが必要である。 (具体的な取組) ・体験→物販→飲食などのストーリー性や統一感のある観光地の形成を目指す。 ・「とちかち検定」の実務化や資格取得者の雇用及び利活用の促進による観光案内の充実を図ります。 ・「道の駅」の設置やインターチェンジの増設の要請などインフラ整備による観光客等の利便性の拡大について検討します。 ・道東自動車道延伸に対応した事業展開及び他地域との連携を図ります。 ・「フードバレーとちかち」の概念や基準をわかりやすく示し、飲食店やホテルなど民間企業が関わりやすい環境を整えることで、民間による「フードバレーとちかち」の普及を促進します。
②地域の魅力発信	十勝・帯広は、雄大な自然・美しい田園景観、安全・安心で豊かな「食」、及びモール温泉など国内外に誇れる数多くの観光資源を有している。この十勝・帯広の「強み」を効果的に発信できる仕組みづくりが必要である。 (具体的な取組) ・外国人誘客の先進地域との連携や既存の情報発信媒体を活用した PR 活動を図ります。 ・専門家や発信力のある人などを対象とした効果的な PR イベントを実施します。 ・ホテルや旅行会社等と連携したアンケートの実施、及び客観的データの共有を図り、それらを活用した情報発信を行います。 ・地域住民に十勝・帯広が観光地であることを意識付けするため、フォーラム等を定期的に開催します。
③満足度の提供	基幹産業である「農業」に、十勝・帯広の最大の魅力である新鮮で豊かな「食」を絡めた観光メニューや周辺地域との連携等による新たな周遊ルートなど付加価値の高い「十勝らしい」観光メニューを確立することにより、この地域を訪れる観光客に最大限の満足感を提供する。 (具体的な取組) ・農場とガーデンの連携など観光ルートへのストーリー性の付加、及び新たな周遊ルートの造成を促進します。 ・専門的な案内ができる農業ガイドを養成するなど、「十勝らしい」体験型観光の深化・醸成を図ります。 ・「食」をメインとした観光振興に、知的観光資源やサイクリングなど他分野の観光資源を絡めた観光振興を推進します。 ・外国人観光客の「不安・不自由・不便」を軽減するため、観光案内や飲食メニューを外国語や写真で表示するなどインフォメーションサービスの向上を検討します。 ・バス・タクシーなどの二次交通を利用する観光客に対する情報提供の充実を図ります。

その他各部会からの意見

各部会からの意見

【全体】

- ・失敗を恐れず挑戦できる体制の構築が必要。企業のチャレンジに対する姿勢の理解促進。
- ・「戦略的えこひいき」という考えがあっても良い。
- ・業界、行政が的を絞って中長期の視点で取り組むことが必要。やることをしっかり決めて計画性を持って取り組む必要がある。
- ・

【人材】

- ・地域全体で人を育てるという考えが必要。
- ・Iターン、Uターンを十勝に呼ぶために色々なチャンネルを使って十勝の魅力を発信していくことが重要。
- ・人材育成は1社だけでは困難。共同の仕組みが必要。
- ・学校で学んだ内容と関係ないように思えても、関係する部分が必ずある。学生の意識を変えること、企業側の発信が必要。
- ・畜大生がもっと市内・管内に就職できるようになるといい。
- ・従業員教育の場が少ない。中小企業の経営者が集まって勉強の場をつくってはどうか。
- ・魅力ある職場づくりのために、職員の能力向上に対する取り組みが必要。人材育成には行政の支援も必要。
- ・高等技術専門学院等において、地域で伸ばしたい産業についての教育プログラムの作成などを行い、実務的な人材教育を行う。(再掲)
- ・建設業における本州企業との連携による通年雇用制度。
- ・地元大学や研究機関の拡充を図る。域内での人材育成は、事業者はもちろん技術者がある程度の条件を満たすと自由に研究移転をできる仕組みをつくる。企業も委託、共同研究や研究移転で費用を支払う。継続的に学ぶことで事業者、技術者がスキルアップしていく。

【ものづくり・販路拡大】

- ・本州中小企業との技術提携。
- ・域外で活躍している企業は競合しなければ色々と教えてくれる。その中で自社にあったものを取り入れ、域内での競争力を高めるための研修を行う事が必要だと考える。
- ・魅力ある素材を最終商品（OEM、PB商品）に近づける必要がある。

【集客・交流】

- ・十勝管外のイベントが十勝・帯広で開催されるなど、話題の中心となるような取り組みができると面白い。
- ・空港の名前をインパクトあるものに変えるなど、イメージの発信が必要。

論点 4 に対する各部会からの意見

【論点 4】域外とのつながりを深めつつ、域内企業の競争力を高めていくには、どのようなインフラが求められるか。

対応方向（案）	各部会からの意見
①共同利用施設や物流システムのあり方の研究・検討、設備投資の促進	・ 同業者が利用できる業種別共同利用各種施設の整備、共同利用物流システムの構築による効率化。 ・ 農業において、農協等の共同選果場があるように、商業においても共同加工場の必要性を感じる。それを海外との連携で構築することが次の展開になる。 ・ 十勝港の機能充実、都市機能として公共交通機関の充実。 ・ 十勝港活用の意味で高速道路の整備が必要。 ・ 設備投資促進のための財政的支援の拡充。
②情報発信の集約化	・ 専門性の高いビジネスマッチングに特化した情報集約及び発信の施設があっても良い。 ・ インターネット等による域内企業の効果的な紹介。 ・ 外部向けホームページの整備。 ・ 観光ポータルサイトの策定。
③再生可能エネルギーへの取組への抜本的検討	・ 再生可能エネルギー、バイオマス構想など、十勝全域での計画はあるが、実際に帯広市が行う計画がない。市として家畜排せつ物プラントなどの計画を持ち出すこともしてほしい。 ・ バイオマスは多くあるが、活用できずに捨てている状況。送電網のインフラがネック。

帯広市産業振興ビジョン見直しのポイント

ビジョンの構成	見直し箇所
はじめに	今回の見直しの経過を加筆
I. 産業振興ビジョンの基本的な考え方	
1. 目的等	
2. 構成及び期間	「重点プロジェクト」「展開事業」の見直しに応じて修正
3. 推進方策	今回の見直しの経過を加筆
4. 他の計画との関連性	
5. 推進体制	『帯広市産業振興会議』（仮称）の「仮称」を削除
II. 産業経済の現状と課題	
1 帯広市を取り巻く社会情勢	平成25年度帯広市産業経済実態調査報告書等を踏まえ、データ・記述を更新
2 地域の現状	
産業の現状と課題	
III. 産業振興の考え方	
1. 産業振興の基本的な考え方	今回の見直し経過を踏まえ修正
2. 産業振興の基本方向	
視点① 地域資源を活用した産業の振興	
視点② 産業間・産学官連携による産業の振興	
視点③ 中小企業の活性化による産業の振興	「5つの施策の基本方向」「20の基本施策」については、修正なし。 「6つの重点プロジェクト」「50の展開事業」について、今回の検討結果を踏まえて修正
展開施策の体系	
3. 展開施策	
(1) 中小企業の経営基盤の強化	概要及び重点プロジェクト、展開事業に、部会の対応方向を反映 ※別紙
(2) 産業人・担い手の育成	
(3) ものづくり産業の活性化	
(4) 産業基盤の強化	
(5) 集客・交流産業の振興	
参考資料	
具体化に向けた工程表（ロードマップ）	H26までの進捗状況を加筆 H27～H31の工程表を作成
中小企業の経営基盤の強化	
産業人・担い手の育成	
ものづくり産業の振興	
産業基盤の強化	
集客・交流産業の振興	
中小企業振興に関する提言書（平成20年8月27日）	
帯広市中小企業振興協議会名簿	
議論経過	
帯広市中小企業振興基本条例	
帯広市中小企業振興協議会設置要綱	
	帯広市産業振興会議の開催経過、産業経済実態調査の概要、ビジョン見直しの経過等を加筆

「3. 展開施策」見直しのポイント

※(数字)は、展開事業の番号

3. 展開施策	見直し箇所
(1) 中小企業の経営基盤の強化 【部会の対応方向】	
① 創業・企業の促進を通して地域全体の活性化を促す	重点プロジェクト「(1)創業・起業支援プロジェクト」に部会における議論・意見を追加 「(06)創業・起業応援」の修正
② 関係機関・団体の各種施策の活動の情報共有と情報発信の統一化	重点プロジェクト「(2)中小企業総合支援プロジェクト」に部会における議論・意見を追加 「(01)中小企業総合相談機能整備」の修正
③ 商店街や個店等の活性化を促進する	「(10)商業関係団体支援」又は「(11)商店街活性化・商店街団体支援」に部会における議論・意見を追加
(2) 産業人・担い手の育成 【部会の対応方向】	
1-① U・Iターン者の確保促進	新たな「重点プロジェクト」として「人材確保プロジェクト」を追加し、展開事業として「U・Iターン者の確保促進」を追加(基本政策⑩「雇用の確保」に展開事業を
1-② 地元企業の情報・魅力の発信	新たな「重点プロジェクト」として「人材確保プロジェクト」を追加し、展開事業として「地元企業の情報・魅力の発信」を追加(基本政策⑩「雇用の確保」に展開事
2-① 研修などの教育制度の充実	「(15)『人材』育成」の修正
2-② 社内での人材育成制度改革	「(15)『人材』育成」に追加
(3) ものづくり産業の活性化 【部会の対応方向】	
1-① 支援制度の活用サポート	「(22)産学官連携」、「(26)ものづくり相談・支援」の修正
1-② 企業同士の連携促進	基本施策「⑪地域資源の活用・農商工等連携の推進」に展開事業を追加
1-③ 大学・試験研究機関等との連携促進	「(21)産業支援機能の充実」、「(22)産学官連携」、「(25)ものづくり技術力強化」の修正
2-① 「つながり」を活かした情報発信力の強化	「(27)市場開拓・販路拡大」の修正
(4) 産業基盤の強化	
	親会議における議論・意見を「重点プロジェクト」「展開事業」に追加
(5) 集客・交流産業の振興 【部会の対応方向】	
① 地域の魅力向上	(37)「食観光・産業観光推進」、(41)観光「人材」育成の修正
② 地域の魅力発信	(39)「観光客誘致、ロケ誘致推進」、(41)観光「人材」育成の追加・修正
③ 満足度の提供	(37)「食観光・産業観光推進」、(48)「海外観光客の受け入れ歓迎体制の充実」の追加・修正